

たたかう労働組合・回転寿司ユニオンに総結集して、労使関係正常化闘争を完遂しよう！

労使関係の正常化をめざして

27

2026/8/12

編集・発行：回転寿司ユニオン

またもゼンセン第二組合が嘘についてオルグしていたことが判明！ 第二組合員のみなさん、本当にこんな組合を「支持」していますか？

「めざして」前号（2026年8月7日付）ではなまる不当労働行為救済申立事件の実効確保の措置申立書にかかる会社側答弁書についてふれたが、このほど救済申立書への答弁書も到着したので、みていきたい。とはいえ、全部を指摘しているといくら紙幅があっても足りないため、基本は期日内での主張に譲ることとし、ここではゼンセン第二組合のオルグに関する部分に絞って指摘したい。

「めざして」12号（2026年3月4日付）では、ゼンセン第二組合のオルグ文書に「去る2025年12月22日に本労働組合を結成し、藤谷社長に組合結成の通知書を提出し受理いただきましたことをご報告いたします」とする記述があることを指摘し、「受理」されなければ組合結成は立消えになるのか、意味不明である、と論じた。ところが、答弁書によれば「被申立人（引用者注・はなまる会社）藤谷社長が結成通知書を『受理』したとあるが、同人は書面を受領したのみで、それ以上の行為はない」としているのである。

また、「めざして」21号（2026年5月29日付）では、同じくゼンセン第二組合のオルグ文書に「以前から人事・労務面でお世話になっていたUAゼンセン様」という記述について、労働者が「人事・労務面でお世話」になるはずはなく、これは使用者としてUAゼンセンとの密接なかかわりを有していたに他ならないのだと指摘した。しかし、これについても答弁書では「被申立人（同注）はこれまでUAゼンセンとの間で何らかの取引関係を有したことはない」としているのである。

そうするとゼンセン第二組合は、そのオルグ文書に虚偽の事実を掲載し、しかもそれに基づいて就業時間中の店長らが同じく就業時間中に従業員を呼び出してオルグし、そして加入届を書かせていたのであり、ゼンセン第二組合の道義的責任は免れ得ない。

にもかかわらずはなまる会社は、答弁書内で「はなまる労働組合（同注・ゼンセン第二組合の名称）が被申立人従業員の支持を得て急速に拡大し」（8頁）、「はなまる労働組合は被申立人事業場において過半数を超える従業員の支持を得る多数派組合となっており」（9頁）等と、なぜかゼンセン第二組合と無関係のはずであるにもかかわらず、ゼンセン第二組合が従業員多数の支持を得ているかのようなプロパガンダ的言辞を繰返しているのである。

しかし、はなまるではたらくみなさん。本当にあなたはゼンセン第二組合を「支持」しているのですか？就業時間中に店長に言われて、よく分からず、あるいは断れなくて言われるがままにゼンセン第二組合に加入させられてしまったのではないですか？このままでは、あなたがまるでゼンセン第二組合を「支持」しているかのように仕立て上げられ、あなたに不利益な労働条件の切り下げ等についても、あなたの真意にかかわらず、ゼンセン第二組合が勝手に妥結できるようになってしまいます。

はなまるではたらくみなさん。今こそゼンセン第二組合から脱退しよう。ゼンセン第二組合からの脱退は、判例上も認められている権利です（国労広島地本〔組合費返還請求〕事件最判昭50・11・28ほか）。回転寿司ユニオンのウェブサイトでは「『UAゼンセンはなまる労働組合』への加入届を書いてしまった方へ」というページも掲載しています。ぜひご確認ください。